



森のなごま

2010年7月号

NO. 27 (継続172)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp>

発行人 島岡 功

〒243-0014 厚木市旭町1丁目8-14・グリーン会館 TEL046-280-4101・FAX046-280-4102

平成22年度通常総会を開催 6月6日(日)

21年度の成果を、会財政基盤の確立と強力な運営体制の構築につなげよう！！

事務局長 竹島 明

平成22年6月6日 特定非営利活動法人かながわ森林インストラクターの会通常総会が開催され、「21年度活動報告・決算」「22年度活動計画・予算」を満場一致で採択し、平成22年度の晴れやかなスタートを切る事ができました。

本総会には公務ご多忙の折、自然環境保全センター森林再生部 内海部長様、かながわトラストみどり財団みどり課 高橋課長様、同豊丸主査様のご臨席をいただきました。紙面をお借りしまして厚くお礼を申し上げます。

総会に先立つ5月23日には第61回全国植樹祭が神奈川の地で開催され、当会では120余名の大部隊を派遣して、県事業に対する全面協力の実を示してただけに、総会でその成果と喜びを晴れがましい気持ちで振り返る事ができたのは嬉しき限りでした。

総勢215名(委任状含む)の出席を得て開催された平成22年度通常総会は財政基盤の確立と強力な運営体制構築という重要課題を提起して、成功裡に終了する事ができました。

今後の取り組みに対する会員の皆様のさらなるご支援・ご協力をお願いしまして、通常総会報告といたします。



総会風景



島岡理事長 挨拶

写真：広報部(鈴木松弘)

足柄森林公園丸太の森での植樹祭に参加して

久保 重明<8期>

22日のリハーサル

ここ3年の間、県内でいろいろな行事に参加してきたが、今日22日が最後の準備であり、本番の会場に入るのも最初だった。

8時30分に防災広場から現地に向かい、現地受付で帽子、ジャケットそしてIDカードの三点セットを渡された。ここにいる間は、必ずこれらを身に付けておくこと、および今日は持ち出し厳禁と伝えられた。今日の作業の説明は旧福沢小学校で行うとのことで、我々17名の他、全国森林インストラクター14名はそちらに向かった。吉田島総合高校26名は学校に集合しやや遅れてバスで到着した。説明は明日の植栽の担当部署と作業時間などであり、午前中に担当部署の確認そして午後からは我々にリハーサルの見学と本番参加者の代役を務めることであった。植栽会場班は4班に分けられ、1班(久保)と3班(黒澤)そして全国森林インストラクターが2班と4班を担当することになっていた。担当部署を確認するため、県職員の方の案内で見て回り、植樹参加者の終了後の退出道順の確認も行った。各植栽会場では既に植栽の孔が掘ってあり、目印の竹が立ち苗木が入っていた。

午後からは式典会場に行き1時間くらい各部分の練習を、2時過ぎた頃から全体を通したリハーサルの見学をした。本番さながらに天皇皇后両陛下の代役が到着しお手植え、そして御発までを演じ、アトラクションやセレモニーなどの演技も行われた。舞台に集中していたが、ふと気がつく白いジャケットの警察官が要所々に配置されていた。リハーサル前に式典中は席を離れないようにとの放送があり、タバコを吸いに行った連中は警察官に大分にらまれたと話していた。3時半過ぎ、今日の準備作業は終了し帰路についた。

23日 本番

6時30分、防災広場でバスに乗る頃には雨が降り始め、旧福沢小学校校舎で各班の人数確認、すぐに合羽に三点セットを身につけ植栽会場に向かった。各班の植栽会場はさらに3つの小区画(a, b, c)に分けられており、各小区画は3~4名で担当した。



丸太の森/植樹風景



9時前後にバスが次々と到着し、受付を済まし植栽会場へ、スーツで革靴の人も混じっていたが、一人2~4本の植樹をお願いした。孔が深く掘ってあり、その割に埋め戻す泥が少なく苦勞していた。参加者1グループ15分以内で、式典会場に送り出すようにとの指示があったが、思ったより早く終えた。送り出した後に、我々は植樹の点検と修正に追われた。また1班の会場で小区画bは身体不自由な人などに割り当てられており、車椅子の小学生が親子でおいでになっただけだった。雨も降っており、午後はこの区画に来る方もないと考えられ、県職員とも相談し、孔10ヶ所くらい残して県職員と3班の応援をたのみ植樹を完了させた。予定通り、9時半前には完了し校舎に引き上げた。植樹に参加する人は経験もある方も多く、雨の中、泥にまみれの奮闘していた。また植えた木に名札をつける人やこんなに密植してよいのかの声も聞かれた。引き上げて午後の準備をしていると集合が掛かり、午後の行事は中止とすることおよび午後の残りの植樹を我々の手で行うよう伝えられた。慣れた人ばかりなので150本近くあったのを、1時間あまりで植樹完了し、宿舎に引き上げた。早めに昼食を済ませたが、すぐに解散と言うわけではなく秦野で天皇皇后陛下のお手播、御発するまで南足柄との間でテレビ中継、そして参加者退場までバスの運行はないとのことだった。それからの時間が長く、14時半頃やっと解散となった。昨年の植樹祭リハーサルも雨だった。この植樹祭は雨に祟られているようだが、植樹される苗にとっては恵みの雨であった。思えば3年間は今日のこの一日に賭けたものだったが、あっけなかった。50年後の森林はどうなっているのかは分からないが、今日植えたものが少なくとも根付くことだけは念じたい。

写真提供：トラストみどり財団・河野 薫さん

第61回 全国植樹祭2010かながわ/秦野戸川公園地区・植樹会場/5月22日(土)・23日(日)

坂齋 明<7期>

植樹会場班体制	：班長・事務局	(植樹会場班の総括)	2名	(県職員)
	受付	(招待者団体の記念植樹受付)	10名	(県職員)
	ガイドサポーター	(要支援者の介助・記念植樹の介添えなど)	42名	(県職員)
	植樹 誘導	(誘導・植樹総括)	1名	(県職員)
		(植樹会場内の誘導)	27名	(かながわ森林インストラクター)
	植樹 指導	(記念植樹の説明・植樹指導、記念植樹の手直し・残苗の植樹)	75名	(かながわ森林インストラクター)

報告

植樹会場には当日は3500名の招待者が来場することから、植樹会場班は県職員の班長を中心とした総勢157名の大所帯での対応でした。

植樹祭当日(23日)は招待者の会場到着が7:00と予定のため、植樹会場班は6:15に現地集合し対応が必要になる。集合のための公共交通手段がないため前日の22日は会場近くの滝沢園への宿泊で100名以上のかながわ森林インストラクターの参加という2度とない取り組みでした。

これも神奈川県知事認定者の責務を感じて最優先での参加・協力でなかったかと思われまます。

5月22日(土) 小田急渋沢駅 8:30 集合

集合場所より貸し切りバスにて植樹会場に移動。植樹祭当日(23日)に備え、植樹会場毎(既に決められていたA班～G班)の7班に分かれ植樹会場内の担当場所、作業用具、作業手順の確認などの準備を行いました。針葉樹林地の中にある植樹地は針葉樹を伐採して確保されていたが、周りの針葉樹は間伐や枝打ちも行われており、整備された樹林地で、今回の開催のために何年も前から準備がなされていたようでした。

確認などの準備はスムーズに進み、16:00頃には宿泊場所である滝沢園にインストラクター総勢102名が到着。夕食は野外の食事どころ(屋根付)で滝沢園特製カレー(サラダ付)。

お代わりをする人で行列ができるほど大人気でした。

(滝沢園主の言：皆さんの食欲にはびっくり！ご飯が足りなくなり一釜追加しました)

夕食後は前夜祭。定員20名弱のバンガローに50名前後は集合したでしょう。大いに盛り上がり日頃接触の少ないインストラクターとの交流もできたと思っています。食欲といい前夜祭の盛り上がりといい、かながわ森林インストラクターのパワーの源ではないでしょうか。

5月23日(日) 植樹会場 6:15 集合

天気予報通り滝沢園出発時より雨。

5:00頃より味噌汁付の滝沢園特製弁当の朝食を済ませ、6:00全員雨カッパに身を包み植樹場へ移動。

去年のプレ植樹祭、当日も雨。これも植樹された苗木の活着の助けとする自然の配慮だったのでしょうか。

前日に確認された手順で植樹会場ごとに誘導と植樹指導。招待者の植樹会場への移動が手際よかったため、午後まで予定されていた植樹された苗木の手直しや残苗の植樹も午前中で全て完了しました。

最後に南足柄会場を含め100名の協力要請に対し120余名の参加申込者の受け入れ、植樹会場班マニュアルの事前配布、秦野会場の宿泊場所確保など配慮していただいた全国植樹祭推進室を始めとする関係者の方に感謝します。

サービス広場での出展(店)について

森本 正信<5期>

本会からは、手作りグッズ販売ブースを出店し、2期・米本、5期・森本で担当した。生憎の雨となったが、特別なハレの日のなせる業か、45,000円のレコード売上げを達成。地方招待者には、土産用のまとめ買いをされる方々も多かった。GM作品が全国区となった一日で嬉しい限り。全ての関係者に感謝いたしたい。

「第39回 全国林業後継者大会」

高橋 恒通<3期>

晴天に恵まれた平成22年5月22日(土)、伊勢原市民文化会館大ホールで会がオープン。千六百人収容できる大ホールは全国から来られた方も多く満員に近い状況で行われた。

大会内容は、①開会式典 40分、②活動発表 2件 40分③基調講演 60分、④パネルディスカッション 70分⑤閉会式典 30分と言うプログラムに沿って進行した。

この中で、私にとって興味と関心の部分のみを私見を交えて以下報告します。

②の活動発表、地元の伊勢原市立緑台小学校6年生の男女30名が、「私達の将来と、今できること」と題し、森林教育で環境問題に係わるものを調べ、現在実行している事を一人一人が次々とリレーで発表。引き続き、県立吉田島総合高校の林業土木コースの3年生男女4名が、「学校演習林を利用した森林・林業に関する取り組み」と題した活動を、パワーポイントを使い映像リレーで発表。特に後者は、次世代を担う後継者の卵たちの姿を私は本当に頼もしく思った。

約20分の休憩後、今大会の私の眼目である③の基調講演、講師は岩井吉彌先生(元京都大学教授、林業経営者)の「私たち林業経営の進む道」と題するキーノートスピーチ。

基調講演資料に記載されている如く、世界林業の趨勢は i) 自然依存度減少=短伐期化 ii) 中小径木大量生産=資本主義的生産。そして1ヘクタール当たりの造林コストは、欧米と比較して日本が突出して高いのが現実です。

特に我国は自然条件が植物繁茂に適している為、下刈りコストが大きく、従って造林コストが日本は欧米の約7倍強に膨らむ結果になっており、同じく伐出コストも亦、欧米の約2倍強です。

このような状況下で、我国の林業が進む道について岩井先生は、「世界の林業の隙間を無節大径木を商品として活用する事もひとつのやり方であり、それに加えて、林業専業でなく兼業で、即ち林産物や農産物などを併せた複合的な分散投資型経営態でやって行くのが進むべき道」であると説かれています。

更に参考例として、我国の林業と条件的に近いのが、欧米ではオーストリア。そのオーストリアの林家の多くが民宿を経営しており、そこで使う熱源を薪に依存している。即ち薪を消費する事により自身の山林の手入れが出来る訳です。従ってオーストリアでも林業経営は兼業で凌がねばならない様な苦しい状況下にある事を説明されています。

加えて、岩井先生ご自身の家業の林業経営に関しては、地元京都のブランド木材である北山杉の磨丸太(ミガキマルタ)や庭木に人気のある台杉(ダイスギ)の生産販売などを含む経営を行っているけれども、このところの不況で磨丸太の需要低迷、所有する北山杉

の山林が湿雪害の大きなダメージを被り、従って経営としては、株式投資やその他で収入を得て本業を継続せざるを得ないほどの厳しい現状を吐露されました。先生曰く「補助金を90%貰っても林業経営にはむつかしい場面があるのが、林業家が置かれている現在の姿」であるとの事です。

続いて、④のパネルディスカッションは「未来の森づくりのために、期待される地域の林業」というテーマで、コーディネーターが岩井吉彌先生、パネリストが、林業経営者の杉山精一氏、(株)市川屋代表取締役の市川英美氏、(有)巻上造林専務取締役で林業作業士の巻上浩昭氏、そして私達、かながわ森林インストラクターの会の同志である谷津直美さんの4名で進められた。

初めに各パネリストが約10分程度で、携っている仕事の内容の紹介があり引き続きコーディネーターの質問に回答する形でディスカッションが進められた。この中で私が最も強く首肯させられたのが杉山氏の話でした。その要約は「絶え間なく知恵と工夫と努力を積み重ね、これを希望を持って明るく楽しみ乍ら続ける事が肝要」。

誰もが口では言えますが実行するには並大抵の事では無い筈です。

例えば、一人が伐倒する日量本数はmax50本に対し杉山氏のそれは400本、一人で8人分の処理量です。その為にチェーンソーの刃の研ぎは最低2回以上との事です。また掛かり木を倒すのに天気予報から風を読んで利用する等など、常に小さな工夫と努力の継続で「入りを計り出を減らし損をしない経営」と銜も無く明るく語る杉山氏の姿は、地域林業に携る後継者達へ希望を抱かせる力強いメッセージでした。

引き続き来場者からの質疑応答の時間が設けられたが質問は少なかったのは事実です。

本大会に出席させて頂いた私の所感を少し述べて戴きます。

言うまでもなく我国土の約70%弱が山林なので国土緑化のけん引役の主役は林業です。然も、四季の変化が明確で降水量も必要量あり、特定の高冷地以外は全ての地域で、ラングの係数は100を超えており、持続的な森林の成育条件が整っている訳です。

昨今、世界の大きな流れのひとつに資源ナショナルリズムの台頭があります。石油、天然ガス、オイルサンド、レアメタル等など、我国には大きな潜在ポテンシャルを持つ森林資源とそれに伴う豊かで良質の水資源があり、将来これらが必ず資源ナショナルリズムの我国の武器となる日が来るものと期待しています。

聞き及ぶところ、森林資源大国のカナダで若者に

とって就職希望の最も高い職業は、森林警備隊の隊員になる事だそうです。

林業は国土保全、環境保全、就中、公益性の高い環境財との役割に加えて林産材生産、そして波及効果として、良質な水と魚介類など水産物の収穫増をも可能にしている訳です。

林業に携わる人達が、憲法に定められている“健康で文化的な最低限の生活”が保証されるならば、体力的にはキツイが高い志と誇りとやり甲斐のある職業と認識しています。

空調の利いたオフィスでキレイな身なりをして、パソコンのキーボードを叩く人達と比べ、山に分け入り樹木と対話しながら育林造林作業に汗を流す人達の仕事の方が、仕事の質は遙かに良質であり、行動美学の価値基準値も桁違いに高いものと確信しています。

「・・・今ここにいることを、
それを知らない人に伝えたい。」
「・・・七沢森林公園で、自然観察とは一味
違った、森の味わい方を体験しました・・・」

== 5/17 森林癒し体験会・研修会報告 ==

昨年度一般参加者から、「とても良かったので、今年も、七沢で森林癒し体験をやってもらえませんか。少人数なら余計いいです。友達を誘って参加します。」と連絡がありました。本年度は、やどりき、山北を中心フィールドにしようと決めていたこともあって、まさに少人数で実施しました。声かけも新11期で部会登録した方だけにさせて頂きました。

研修に参加された兩名から、素晴らしい感想を寄せて頂きましたのでご紹介いたします。

みなさんも、ぜひ体験してください。

<柳澤 千恵美 11期>

まさにまさに五月晴れの空の下、この季節にしか見ることのできない若緑とその息吹薫る風の中、県立七沢森林公園で、自然観察とは一味違った、森の味わい方を体験しました。

目をつぶって沢のせせらぎを聴く。寝転んで、樹冠越しに空を仰ぐ。幹に抱きつき、樹肌にほおずりする。川の音も、風のそよぎ方も、枝の揺れ方も、どれひとつとして同じではなく、規則性のない動き方をしているようでいて、何故か互いに干渉したり、阻害したりしません。自由気ままでありながら、大きな調和の中にある。そんな安心感が、「癒し」の原点ではないかと感じました。最後に、広沢寺温泉で猪鍋と露天風呂を満喫。味覚も含めた五感をリフレッシュした一日となりました。

少子高齢化、地域格差の進行、そして成果が出るまでに長年月を要すると言うハンディはありますが、林業家やその後継者の生活を保証する為に、都道府県全てで応分の“水源税”的なものを徴収し、林産業振興バックアップ体制の法制度確立などは喫緊の課題と思います。

何はともあれ私達かながわ森林インストラクターの会の会員は、森林の大切さや価値の高さを広く世間に認知して貰う為の普及啓発活動と育林施業活動への注力を惜しんではならないと改めて認識しています。

そして最後に、⑤の閉会式典における大会宣言で“私達は、林業の担い手としての誇りを持ち、これまで育んできた森林と優れた林業技術を未来へ継承し、私達自身も飛躍していくことをここに誓います。”と声高らかな宣言で結んだ言葉が印象的でした。

<吉田 郁夫 11期>

風が木々の葉を揺らすざわめき、
小川が岩の間を通るせせらぎ。
日の光を柔らかくして頬に届けてくれる
葉と木漏れ日の爽やかな暖かさ。
時折聞こえる鳥のさえずり、虫の声。
地面から伝わる太陽のぬくもりと柔らかさ。
雲がまばらに浮かんでいる薄青色の空。
遠くに霞んでいる山の町。
自然観察というと、樹木や草花などの
植物・虫・鳥などの名前を知ること。
知識を詰め込むのに必死になって。
ややもすると「樹を見て森を見ず」
になるのが多いのですが、
自然を自分の身の回りを細かく見ず。
知識でなく五感を研ぎ澄ませて、
そのままただ感じる。
観察でなく感察。
春の晴天だけでなく、
冬の寒さ、夏の暑さ、秋の肌寒さ。
夜の闇や星空。雨の日。風の強い日。
すべての時を、素直にそのまま感じ、
地球とその上にいる生命の息吹を感じ取りたい。

今ここにいることを、
それを知らない人に伝えたい。

予告： 森林癒し体験・研修会
8月29日(日)やどりき水源林
くわしくは「森のなかま」8月号にて

活動短信

5/22～6/16

平成22年度 川崎市里山ボランティア育成講座

「中級編 第一回」

日	5月22日(土)
場	等々力緑地(川崎市中原区)
参	一般市民 20名
市	緑政企画局 江口
スタッフ	川崎市公園緑地協会ほか 8名
イ	松崎⑤

川崎市公園緑地協会が実施する「里山ボランティア育成講座」シリーズ平成22年度の第一回目。このシリーズは、川崎市が緑行政の一環として市内の里山整備を進めていく市民ボランティアリーダーの育成のために展開しているもので、今年が10年目になる。本年度から、入門クラス、中級クラスの2クラスを設定、それぞれ6回/年講座を開催する。入門クラスは森林インストラクターが直接実技指導を行い、中級クラスは川崎市緑レンジャーが直接指導を行い、森林インストラクターが全体指導を行うことになった。私は中級クラスを担当することとなったので今回の報告は中級編のもの。午前中は川崎市の緑の基本計画について市緑政企画局の江口氏が講義した。午後は松崎が参加者に「のこぎりの使い方・伐採の仕方」など簡単な講義を行った後、実技として緑レンジャーの指導の下に「樹木の伐採体験、道具の手入れの仕方体験」をしてもらった。第二回は7月3日に救急救命講習・アズマネザサの除草刈り実習を行う予定。(記 5期 松崎)

平成22年度 川崎市里山ボランティア育成講座

「入門編 第一回」

日	5月30日(日)
場	等々力緑地ふるさとの森(川崎市中原区)
参	一般市民 24名(うち子供7名)
スタッフ	川崎市公園緑地協会ほか5名
イ	L清水⑧、伊藤⑦、中島⑨、小林⑩、金森⑩、大橋⑩、

川崎市公園緑地協会が実施する「里山ボランティア育成講座」シリーズ入門編の平成22年度の第一回目。開講式・主催者挨拶・スタッフ紹介の後、シリーズを通しての趣旨や注意事項を説明。さらに里山の意義とその重要性を知ってもらうために紙芝居を行った。

作業その1: 鋸と剪定鋏を配布し雑木林にて樹木の伐採を体験する。3班に分かれ、準備運動の後、予め剪定しておいた込み入った常緑樹を伐採する。初めて木を伐る方が多く、安全に作業することを学ぶ貴重な体験となった。子供達も体験した。

作業その2: 伐採した木を加工してクラフトを行う。ネームプレート用の輪切りや書けない鉛筆、どんぐりトトロを作成、思い思いの作品に満足した様子であった。伐採したままの材料を持ち帰った参加者もいた使用した道具の手入れを行い予定時間通り12時半に解散となった。(記 10期 金森)

初日・第29回 横浜開港祭での街頭キャンペーン

日	5月29日(土) 10時～16時
場	横浜みなとみらい臨港パーク
参	一般市民 440名(大人302名・子供138名)
財	豊丸 自環保 小司
イ	L渡部⑦、落合③、渡辺③、武本⑦、永野⑥、坂齋⑦、野呂⑧、野牛⑧、小沢⑨、中島⑨、村井⑨、海野⑩、金森⑩、角田⑩、松本⑩、 前日までの暖かい日と違い朝からの霧雨と低温(14～18℃)のスタートとなりました。渡部リーダーのもと4班でJOB分担を行ないました。分担は①受付/リーフレットとクイズ解答景品渡し②紙芝居/実験装置を用いた説明とクイズヒント③間伐をイメージさせる丸太輪切り④③で切った輪切りを台にしたグッズ作り(材料は8カ月も費やして集めた樹の実、中には八ヶ岳まで拾いにいった物もありました。先輩インストラクターの優しさ、粘りには唯々感服(謝々、コックンカップ・・・)です。生憎の悪天候で出足が鈍く不安でした。それでも少しずつ出足が上がり、最終的には入場者数440名、他に日本語対応できないUS黒人家族3名、インド人家族3名(概要を英語で説明対応。通じたかな?)でした。例年の天気の良い日ですと1000人超えだそうです。時折、声はすれども姿が見えないクラスらしき鳴き声に子ども達の目は点(耳が点かな)になっていました。認定済みの特定内来(外来ではありません)生物の村ガラスや認定を目指している異種の野ガラスがここMM21にも鳴き始めたのです。(記 11期 松本)

2日目 街頭キャンペーン

日	5月30日(日) 10時～16時
場	横浜みなとみらい臨港パーク
参	一般市民 1154名(大人674名・子供480名)
イ	L渡辺③、大塚①、高橋③、横山⑤、北村⑥、武本⑦、渡部⑦、青木⑩、海野⑩、大澤⑩、小笠原⑩、角田⑩、時田⑩、大塚⑩、福島⑩ 曇り空の中、海よりの風をうけながら受付及び景品渡し班、工作教室班、間伐丸太切り班、クイズ・紙芝居・水源かん養実験班に別れ千人を越す人々に森林づくり活動・水源の事業関係・トラスト運動・緑の募金などのリーフレット・チラシを配布しました。一人でも多くの方々に水を育む森林の大切さ、県が推進している「水源の森林づくり事業」についての協力を訴求することにより、「今日は大事な話を聞かせてもらった。」「森って大切なんだ。」「水を大事にしょー。」と、大人や子供からいろいろな理解を示してもらえました。

次の世代に向け我々のメッセージを直接伝えられる場に行かせて頂いたのに感謝するとともにこの様な催し物を長く続ける事が底辺を広げる事と強く感じました。(記 11期 福島)

3日目 街頭キャンペーン

日 6月2日(水) 10時~16時
場 横浜みなとみらい臨港パーク
参 一般市民1022名(大人440名・子供682名)
財 豊丸
イ L森本⑤、国分③、高橋③、渡辺③、高崎④、横山⑤、伊藤⑦、武本⑦、坂齋⑦、渡部⑦、加藤⑧、草野⑧、中島⑨、青木⑩、小笠原⑩、

5月の月末と違い平日なのに天候に恵まれたせいか、受付開始から大勢の方が来られた。長蛇の列に嬉しい悲鳴を上げた。午後2時には丸太切りの丸太がなくなり、その後は説明のみで3時すぎまでキャンペーンを続けた。リピーターの方も多く、昨年の作品を飾ってあると言う嬉しい話も聞くことが出来た。丸太切りをしている子供の顔はどの子も生き生きとしており、普段見せないようないい顔なので、親御さん達が驚かされていた。

炎天下でベビーカーのお子様連れを長時間待たせるのはかわいそうであったが、安全面から分かって頂きクレームが出なかったことは幸いでした。(記 10期 小笠原)

パートナー林保全活動

日 6月5日(土) 10時~12時 曇り
場 やどりき水源林
参 新日本石油株式会社根岸製油所 78名
自 環境保 小司
イ L三浦⑧、宮本④、白畑⑦、武者⑦、浦野⑧、中島⑨、青木⑩、大澤⑩、大塚⑪、松永⑪、
 参加者は社員とその家族の方で、間伐、木工工作、自然観察のグループに分かれて活動した。どのグループにも子供がおり各々その対応が必要であった。間伐は41名で後沢入って左のエリアで行ったが急斜面で、人数もエリアの割には多かったので、安全面からも周りで見守る人が多くなった。この様な時や最後の余った時間に切り株を地ぎわから切り直してもらったり、お子さんには払った枝を使った工作をしてもらったりと各リーダーは工夫をこらしていた。木工工作は21名で、うぐいす笛と書けない鉛筆の工作、更にはコースター作りにと多くのお子さんにも喜んでもらえた。ナイフの使用は大人に限定した。

自然観察は16名で、林道コースとBコースを合わせて歩き、単なる植物、動物観察ではなく、水源の森林の全体を観ていただき、同時に行われている間伐作業を林道から見てもらい大変さも見てもらった。曇り空ではあったが皆さんには楽しく活動してもらえたと思っている。(記 8期 三浦)

野外体験学習

日 6月16日(水) 13時半~20時半
場 横浜自然観察の森
参 横浜市立西寺尾小学校4年生78名 教師6名
イ L杉戸⑥、渡辺③、出口④、横山⑤、伊藤⑦、野田⑧、海野⑩、木島⑩、

前夜に激しい雨が降り続き実施が危ぶまれましたが、朝には雨も止み、午後には快晴に恵まれた自然観察の森で8班に別れて雨に濡れた山道を歩きました。「横浜自然観察の森」は高尾山から城ヶ島に至る緑の回廊「いるか丘陵(多摩・三浦丘陵群)」の背びれと尾びれの間に位置し、深い森は自然のままに保全され生き物が賑わい暮らす森です。木立の中で鳥が歌い、水辺でトンボが舞い、太古の時代には深海の底にあった名残を留める地表で、子供たちは耳を澄ませて風を感じ虫や鳥の声を聴き、足を濡らして水に遊び、地層や断層に自然のエネルギーを知り、感動の声が谷間に木霊しました。夜は真つ暗な森の中でホタル鑑賞を行いました。暗い夜道に恐る恐る歩いていた子供達も、ホタルの淡い光の点滅に歓声をあげていました。雲の切れ間からは三日月と宵の明星が輝き、金星目指して飛び立った「あかつき」を探して夜空を見上げました。反省点は、観察ウォークの最初にヤマグワやヒメコウゾの実を試食したこと。以後、木や草の実を見つける毎に食べることに関心が向いてしまいました。試食は最後にすべきでした。(記 10期 木島)

県民参加の森林づくり

日 6月5日(土) 8時~15時
場 大井町山田(おおいゆめの里)
参 90名
財 高橋、鳥海
イ L渡辺③、清水③、鈴木友③、出口④、米山④、横山⑤、鈴木⑥、宮本⑥、富山⑧、牧野⑩、後藤⑩、

昨夜の大雨に、財団へ連絡すると電話の向こうから鳥海さんの声で「予定通り開始します」と留守電が、新松田集合時も怪しい空模様で「雨が降らなければいいのに」しかし現地(おおいゆめの里)に入った頃から上天気。「普段の行ないかな!」

現地では5班に別れ間伐及び林床整備を行いました。ハナイカダやイロハモミジは伐らないようお願いしましたが、ハナイカダのサンプルが見つからずに大鎌で数本が伐採されていました。

近くには、サイハイランやイチヤクソウが花を付けていました。間伐グループの参加者に団体行動の出来ない人がいて、事故等の防止から厳重に注意しました。

昼食後、リーダーの渡辺さんからハナイカダ、杉、ヒノキの葉のサンプルを使った紹介と森林の機能について金額に置換えた、判り易い説明がありました。(記 10期 後藤)

**やどりき水源林
ミニガイド**

6月のトピックス



管理棟の近くに咲くウリノキ

7月の水源林

梅雨が明ければ待ちに待った夏休みが始まります。水遊びの楽しい季節です。家族揃って寄沢で水遊びをしながら水の中の生き物を探しましょう。水の中の石の下にどんな生き物が潜んでいるのか、網ですくって探してみませんか。森林インストラクターが夏休みの宿題のお手伝いを致します。

「森の案内人」情報

- 実施時間：毎週土・日曜・午前10時・午後13時、1～2時間程度（冬季休止）
 - 集合：水源林入口ゲート前
 - 内容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ・手入れなどについて説明いたします。
- 参加自由、参加費無料
*10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。
- 問合せ：(財) かながわトラストみどり財団 TEL:045-412-2255
fax:045-412-2300
 - ホームページ：：<http://www.ktm.or.jp>
 - E-mail:midori@ktm.or.jp
 - やどりき水源林までの道順
小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約25分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩35分。
寄大橋の右横が水源林ゲートです。

訃報

浜口哲一氏 (享年62歳)
神奈川大学理学部特任教授
元平塚博物館館長

ご病気の為、5月3日に他界されました。浜口先生には森林インストラクター養成講座で多くのインストラクターの卵達にご指導いただきました。ありがとうございました。心よりご冥福をお祈りいたします。

◇森のなかま原稿募集◇

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。写真、スケッチなども募集しております。

送り先

<①配信希望・手書き原稿送り先>
森 義徳 〒232-0053

横浜市南区井土ヶ谷下町16-3-202
Tel/090-5433-7784Fax/<株リコー・森宛045-590-1910>

Mail: myforest@yha.att.ne.jp

<②メール・手書き原稿送り先>

【本誌】村井正孝

〒226-0002
横浜市緑区東本郷6-22-1-420
Tel/Fax: 045-476-4112
Mail: murapu60dai@yahoo.co.jp

【別冊】金森 巖

〒227-0038
横浜市青葉区奈良2丁目10-5
Tel/Fax: 045-961-6695
Mail: i_kanamori@morinotabibito.com

【CCで】森本正信

〒194-0001
東京都町田市つくし野2-13-7
Tel/Fax: 042-796-6011
Mail: k-inst0981@friend.ocn.ne.jp
原稿の締切は毎月20日です。

★編集後記★

★植物が過去6週間の気温を記録する能力の遺伝子を発見したそう。凄い。その記録を基に、四季の活動を操作する。他方、海で原油流出、日量300万L以上、掘るだけ掘って、漏れたら停める術なし。万物霊長類の頂点の知恵は無いのか。なさない。(鈴木松)

★千葉に所有する山で夏に間伐を計画しています。まずは全ての本数を数えました。虫ピン(100本で100円)を大量に買い込み、1本ずつ、つる切りも兼ねて、約800本刺し終えました。目立たないので良い方法かもしれません(金森)

★梅雨のジメジメ人間にとっては辛いけど、森林にとっては恵ですね。でも、この環境ではヤマビルが活発で大変ですね。(森)

★雨の中、色とりどりのアジサイが花盛りです。中でも雨に濡れたガクアジサイは、つつましい中にも趣があり、うっとりしさを忘れさせてくれます。(井出)

★うっとりしい季節となりました。リフレッシュは香りの風呂とビール(第3)頼みです。(鈴木朗)

お詫び：6月号本誌の電子配信分で一部写真掲載にお見苦しい点がありましたことを、お詫びいたします。(村井)

◇年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込みください。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込みください。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記してください。

振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

(頒価 200円 送料共)

編集人：村井正孝

広報部：井出恒夫 (HP)、鈴木松弘、金森 巖 森本正信 原田智也 上野潤二 森 義徳 鈴木朗



ヒメボタル♂

陸生のホタルです。

鍋割山荘ヒメボタル観賞会
7月17日(土)夜~18日(日)

会費：1泊2食付 6,500円

16時までには山荘に到着をお願いします。

<要予約>草野延孝さん

携帯：090-3109-3737

自宅：0463-87-3298

ホタルは20時頃登場予定です